

## 編集後記

紀要も本号で通算 10 号を数える。また、本号をもって終刊する予定である。

藪から棒ではあるが、これは本学の公立化に伴う組織改革によりフォトニクス研究所を廃止するからである。要するに役割を終えたということであるが、自嘲的に言えば、大した役割がなかったからかもしれない。

そもそも当初より予算や人員の裏付けがあったわけでもなく、本学の研究の推進、特に外部資金等の導入を図るうえで組織的かつ定期的定常的な活動を行いたいということが設立の動機であった。確かに名前の上では、研究所のもとに、ナノテク支援があり、バイオメテックスがあり、CIF 組織委員会があるように見えるが、いずれも独立して運営することに支障はない。

それでも本紀要の刊行を継続できたことは喜ばしく思っている。ご協力いただいた多くの方々に感謝の意を表したい。もちろん印刷物として配布したわけではないので、何人が読んだか甚だ心もとないが、それでも本学もしくはどこかのアーカイブには残り続けるのではないかと思う。

記録を残すことは自らを歴史化することである。如何に大きな仕事をして、記録が散逸すればいずれ記憶からも消えてしまう。

最近、徒然に明治期の文学を調べていると思うのだが、無名の人物の書簡や日記が著名な作家やその周辺に関わっていたという理由で収集、研究の対象となり、その人物を髣髴させることがある。一方で、当時それなりに大きな事業を残した企業家などの人物

像がすでに不明瞭になっていることも多い。意識して記録を残した、あるいは運よく残ったか否かによるのであろう。価値の判断はまた別問題である。

幾十年先において、本研究所の記録はおそらくこの紀要があるばかりになっているかもしれない。幸いにして本学の五十年史、百年史を編む日があれば、本紀要をもって研究所の存在を過大に考うことなかれ、と未来の編者に対して申し添えておきたい。  
(YK 生)

### 編集委員

川辺 豊 (委員長)  
カートハウス オラフ  
下村 政嗣  
山林 由明  
唐澤 直樹  
大越 研人  
小田 久哉  
大沼 友一郎  
田中 絵美

### 編集庶務担当

柏倉 喜美子  
平沖 明子

千歳科学技術大学 フォトニクス研究所紀要 第9巻 第1号

平成 31 年 2 月 12 日発行 通巻 10 号

編集 フォトニクス研究所紀要編集委員会  
発行者 千歳科学技術大学  
〒066-8655 北海道千歳市美々758-65  
電 話 0123-27-6044